

## ASrIA International Conference in Japan

日時： 2002年10月28日（月）

会場： United Nations University, Tokyo

# 大和証券グループのCSRへの取り組み

株式会社大和証券グループ本社  
取締役 林部 健治



本資料は、当社グループの今後の経営戦略に関する情報を提供することを目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は作成時点における当社経営陣の見解に基づいて作成されており、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、今後、予告なしに変更されることがあります。本資料のいかなる部分も一切の権利は株式会社大和証券グループ本社に帰属し、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

# サステナビリティに向けたあゆみ

## 金融構造改革の状況

- 純粋持株会社の解禁 (97年)
- 連結会計制度への移行
- 証券業の登録制への移行 (98年)
- 株式委託手数料の自由化 (99年)
  
- 時価会計の導入 (00~01年度)
  
- 確定拠出年金制度の導入 (01年)
- 証券関連税制改革
  
- 定期性預金ペイオフの実施 (02年)
- 株式譲渡益課税の改正 (03年1)

## 大和証券グループの主なアクション

1997年

- 総会屋への利益供与事件

1998年

- 企業理念制定
- 中期経営計画の策定と公表

1999年

- 持株会社体制へ移行
- 大和証券と大和証券SMBCの分社
- 経営諮問委員会の設置
- 企業倫理推進室の設置
- 社会貢献室の設置
- D J S I の構成銘柄に選定

2000年

- 報酬委員会の設置
- グループ中期経営計画の策定と公表

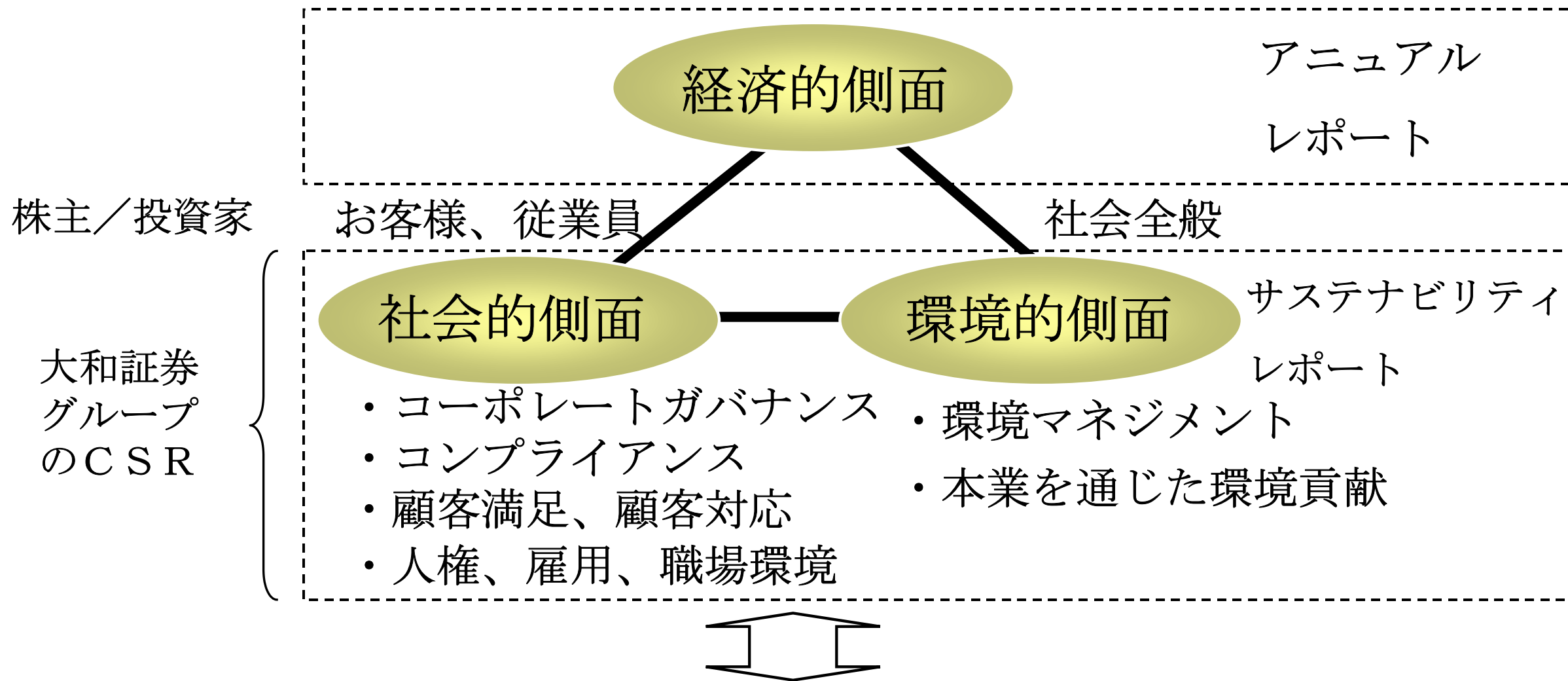
2001年

- ブランド・ステートメントを公表
- CS推進室の設置
- エコファンド“Mrs. Green”の販売

2002年

- “サステナビリティ”を重要な経営課題に
- 初の社外取締役の選任
- 最初のサステナビリティレポート公表

# コーポレートブランド経営とサステナビリティ



大和証券グループの考えるコーポレートブランド経営

- お客様の信頼と満足を追求する経営
- 自社の使命と行動が一致する経営
- **CS**と**ES**が好循環する経営

# 日本の事業会社の状況

## 日本の国際優良企業の状況

- 企業不祥事の多発  
⇒企業倫理、消費者からの信頼回復への関心向上
- 各種調査機関からのヒアリング増加  
⇒当初は欧米調査機関。最近では国内調査機関も出現
- **CSR**、サステナビリティの考え方は徐々に浸透  
⇒日本企業、自社に適切なCSRを模索中

## その他企業の状況

- グローバルな視点による**CSR**、サステナビリティの考え方が認識されるのはこれから

# 日本の機関投資家の状況

- 現時点では、一般知識としてSRIを学ぶというスタンスが強い
  - ⇒ 自社の投資戦略への取り込みはわずか
- ただし、年金基金による議決権行使の動きあり